

参 考

私立大学図書館協会

2010年度事業計画における研究助成および研修補助について

近年、少子化・大学全入の時代に突入し、私立大学のみならず大学に附置される図書館の運営には、厳しいものがあります。それに拍車をかけるのが図書館予算の削減、雑誌およびデータベースの購入費の高騰です。他方、大学を構成する学生および教職員から、また、図書館の位置する地域社会からの期待とニーズも変化しつつあり、図書館はそれに応えていかねばなりません。それに加えて私立大学の雇用環境の急激な変化の中で、図書館員として明確な自覚をもち、内外の図書館事情に精通した有意な人材の育成もけっして疎かにはできません。

以上のような状況に対し本協会は、私立大学の約9割が加盟する団体として、加盟校が協会に加盟している意義を実感できる活動を展開していくことが大きな責務であると考えます。

2010年度は、これまでの協会事業を継承しつつも、新たに諸外国の図書館事情の調査・研究を支援し、図書館員自身の発意による研修を奨励するため二つの制度を提案いたします。

加盟館のみなさまにおかれましては、新しい制度を積極的に活用いただき、グローバルな視点から大学図書館員としての資質向上を図られることを願いたします。

海外図書館事情調査

既存の四つのカテゴリーの研究助成に加え、海外調査に特化した五つめの研究助成として実施いたします。他の研究助成と同様、綿密な計画を立案・提出いただき、事前に研究助成委員会の審査を受けていただきます。調査テーマは加盟館および図書館員が関心を抱いているものを設定してください。成果は総会で発表していただきます。長期の調査期間を想定していますので、申請者は所属の大学と十分に話し合い、バックアップを得てください。現在の大学図書館界が直面している問題、例えばアウトソーシング、専任図書館員の減少、資料費の高騰、予算の減少、デジタル化、コンソーシアムの形成と運用、新館建築など、世界の図書館事情をつぶさに調査し、加盟館に成果をフィードバックしていただけるよう期待します。

海外認定研修

大学規模の大小を問わず、どの加盟館も図書館員の減少には悩まされていることと思います。ことに人員に余裕がない図書館においては日々の業務に追われ、研究会などで新しく知識を得ようにも参加すらままならない状況ではないかと推察いたします。それにもかかわらず、われわれ図書館員に対する要望は高まる一方です。高まる期待とニーズに応えるためには自己研修により自ら資質と能力を高めていく必要があります。そのためのひとつの機会として「海外認定研修」を設計いたしました。

国際図書館協力委員会で海外集合研修と海外派遣研修の機会を提供していますが、これらの派遣時期・行き先の束縛をなくしました。例えば、夏休みに上海に旅行するなら、その中の1日を図書館の調査にあてるというように自由度を高めました。帰国してから協会の研究会などでプレゼンテーションをして研修は完了です。

各人の自己研鑽になることはもちろんのこと、報告を通じて斬新な知見が本協会にもたらされることを期待します。